

令和8年度（2026年度）
長野県立大学 大学院 健康栄養科学研究科

夏季 選抜試験

専 門

（60分）

出題領域等確認表

	指導教員（専門領域）	
①	石井陽子教授（人体病理学，実験病理学，健康科学）	
②	杉山英子教授（生命科学、脂質生化学、食品科学）	
③	中澤弥子教授（食文化研究，調理科学，生活科学）	
④	小木曾加奈教授（食品科学，農芸化学，生活科学）	
⑤	草間かおる教授（公衆栄養学，国際栄養学，健康科学）	
⑥	今村晴彦准教授（公衆衛生学，社会疫学，地域保健，実装科学）	✓
⑦	新保みさ講師（栄養教育，行動科学，健康科学）	

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は8頁あります。解答用紙は1枚あります。
- 3 試験開始の合図後、まず、問題冊子、解答用紙の落丁、乱丁、印刷不鮮明等がないか確認し、気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 試験開始後、受験番号、氏名を解答用紙の所定欄（解答用紙1枚につき、受験番号2箇所、氏名1箇所）に記入してください。
- 5 試験開始後は、原則として、試験が終了し退出許可が出るまで退出できません。
- 6 解答用紙は持ち帰らないでください。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

【⑥公衆衛生学、社会疫学、地域保健、実装科学領域】

問 問 1 および問 2 に答えなさい。なお字数制限はない。

問 1 公衆衛生における、1 次予防・2 次予防・3 次予防について、それぞれ具体例をあげながら説明しなさい。

問 2 A 町役場では、40 歳代の住民の高血圧予防・対策を目的として、全 10 地区の自治会長に働きかけ、地区ごとに減塩教室を実施することとした。住民は町外企業の就業者が多いため、教室は休日開催とした。地区ごとに年 1 回、90 分の開催とし、講義と減塩食試食を組み合わせた内容を企画した。2024 年度の事業成果を RE-AIM モデルで評価した結果は以下の表の通りである。この表から読み取れる範囲で、次の 2 点についてまとめなさい。

①事業にはどのような課題があると考えられるか。

②今後、事業の実効性を高めるにはどのようなことが必要だと考えられるか。

表 2024 年度の事業成果

項目	説明	事業成果
到達度 Reach	活動がどれだけの対象者に届いたか	自治会長が理解を示し減塩教室が開催できたのは 5 地区であった。この 5 地区には 40 歳代の住民は計 1000 人（うち男女それぞれ 500 人）おり、このうち教室参加者は男性 50 人、女性 250 人であった。
効果 Efficacy/ Effectiveness	活動によりどれだけの効果がみられたか	教室参加者に満足度を聞く目的でアンケートを実施した。その結果、参加者 300 人中 250 人が「参加して良かった」と回答した。
採用 Adoption	活動にどれだけの関係者が関わったか	役場内には管理栄養士が 3 人おり、そのうちこの事業に関わったのは 1 人であった。
実施精度 Implementation	活動が適切に行われたか	開催した全 5 地区で休日開催、90 分の開催ができた。内容について、試食準備に関わる地域の協力者の都合で、減塩食試食ができない地区が 1 地区あった。
継続性 Maintenance	活動は持続可能なものか	実施した地区からは来年度も開催して欲しいという声があった。役場内では、事業の成果が見えないと今後の予算の維持が難しいと言われた。

